

NATTARA

SKILL BOOK

2



インタビューアーになったら



こーしよう!?

「成長したい」と思うすべての人に

NATTARA
トレーニング スクール

■この冊子は、公式WEBサイトのNATTARAスキル
〈ショート動画〉Vol.4~Vol.6をまとめたスキルBOOKです。

ビジネス人生をきっと楽しく豊かにする
NATTARAスキル。

〈リーダーになったら〉編に続いて今回は、
〈インタビュー者になったら〉編です。

「インタビュー」とは、
人から「話を聞き出すこと」。
さらに言えば、インタビューとは
「本音」を聞き出すこと。



そう考えるとインタビュースキルとは、相手の考え方や
思いを敏感に受け止め、共感する能力も必要になります。
それでは早速、「インタビュー者になったら」
ぜひ身につけたい、とっておきのスキルをご紹介します。

〈インタビュー者になったら〉

CONTENTS

Vol.4

「感動人間」になろう

- [1] 感受性を磨く
- [2] 感じたことを言葉にする
- [3] 信頼を勝ち得る

Vol.5

「敬意」のスキルを磨く

- [1] 話の価値を認める
- [2] 話のリズムを作る
- [3] 価値観を広げる

Vol.6

「こども心」を復活させよう

- [1] こんな質問、いまさらできない
- [2] それはなぜ?を繰り返す
- [3] 「こども心」を持ち続ける

こんにちは。越前賢一です。

〈インタビューになったら〉編の第1回目です。

インタビューを成功させるのに
必要なのは、まず
物事に「感動する心」を持つことです。



なぜ、インタビューで「感動する心」が必要なのか。
その理由がわかるNATTARAスキルをご紹介します。

最初のテーマは、
インタビューになったら
「感動人間」になろう!です。

職業上のインタビューの方はもちろん、
実は、誰でもさまざまなビジネスシーンで
日々「インタビュー」という行為を行っています。

「インタビュースキル」を身につけることは、ビジネスにおいて
間違いなくあなたの能力アップにつながります。

では、『「感動人間」になろう!』について、3つに分けてお話を
スタートします。



[1] 感受性を磨くことを意識する



毎日、今日はどんな「感動」に出会えるか、を楽しみに。
「いいな」と感じたことをしっかり心に留める習慣をつけましょう。

まず、毎日あなたは、**ひとつでも「感動」することを探す**という課題を課すことです。

どんなことでもいいのです。

「何気ない笑顔が良かった」

「コンビニの店員さんのありがとうの声が良かった」

「今日のランチが皿に美しく盛り付けられていた」

など、

探せば、あなたの周りには「感動」する事柄があふれています。

何気ない日常で**「感動」を探す習慣を付ける**ことで

「感動人間」に近づけます。

感動ノートや感動メモを

作成することも

効果があるかもしれませんね。



[2] 感じたことを言葉にする



インタビューは、相手にたくさん話をしてもらうこと。そのために感じたことを言葉にして場を盛り上げていきましょう。

インタビューで大切なことは、相手にたくさん話してもらうことです。

裏を返せば

たくさん聞かなくてはなりません。

そのためには、

「すごいですね」

「素晴らしいですね」

「さぞかし、辛かったでしょう」など

インタビューが機転の利いた言葉をタイミングよく発することで、相手がさらに話をしやすい雰囲気を作り上げることです。

そのためにも、感動人間になる必要があります。

話が盛り上がれば、いままでにない

貴重な話が聞け、

ビジネスチャンスに繋がることもあります。



[3] 信頼を勝ち得る



人に接し、人と話すことは、相手の信頼を勝ち得る近道。インタビューは、ビジネス上の大きな可能性を秘めた行為です。

人は話すことによって癒される。

人は多くを話した相手を信頼するということが言われています。

インタビューは人に接し、相手の話を聞くことが仕事です。

しかしこの行動そのものが、

実は相手からの信頼を勝ち得る近道だということです。

真摯な態度でインタビューを行うこと。

インタビュースキルを磨くことは、ビジネスで大いに役立ちます。

インタビューを苦手としている人も多いことでしょう。

しかし、インタビューは、実は

ビジネス上、大きな成功の可能性を秘めています。

まずは「感動人間」になる努力から始めて行くことは、

誰でもできることなのです。



今回のお話は、これで終わりです。

感動体質になろう



インタビューでは、相手に
「もっと話したい」と思ってもらうことが大切です。

そのためには、相手の話「感動」し、
本心から「聞きたい」という気持ちを伝えること。

相手が「つい、しゃべりすぎてしまった」
となるのが、最高にいいインタビューと言えます。



では、また
お会いしましょう!

こんにちは。越前賢一です。

〈インタビューになったら〉編の
第2回目です。

普段、話をしたことのない人から
お話を聞く「インタビュー」。
そこには、テクニック以前にも
必要なことがあります。



そこで、覚えておきたいNATTARAスキルをご紹介します。

今回は、インタビューの心構え、
『「敬意」のスキルを磨く』というお話です。

インタビューは、人の話を聞いてなんぼのものです。
相手に気持ちよく正直な思いを語ってもらうには、
話してくれることにしっかりとうなずき、
相手に対する「敬意」を示すことです。

それでは、「敬意」を示すスキルについて
3つに分けてお話しします。



[1] 話の価値を認める



インタビューで知りたいのは、相手の頭の中にある「情報」。その人ならではの、考え方や感じ方、志を「敬意」をもって聞きましょう。

一番目は、**人の話の価値**をしっかりと認める、ということです。

いまや、何かを知りたいと思ったら、

ある程度の情報は、**インターネットで入手**できる時代です。

しかしインタビュアーの知りたい情報は、

インタビューする相手の「**頭や心**」の中にある

思いや考え方なのです。

こうした情報は、**かけがえのないもの**なのです。

だからこそ、自分とは違う**考え方や感じ方**、

行動の背景にある**志**などに

「敬意」を示す必要があるのです。

話してくれる人に
「敬意」を示すこと

[2] 話のリズムを作る



相手に乗って話してもらうために、うなずいたり、驚いたり、「それで…」と、次の話を待つ姿勢を体全体で表現しましょう。

次は、インタビューするときは**話のリズムを作る**、というお話です。

インタビューしながら、**うなずき**、「それで…」**「それで…」**と相手が自分のペースで**話しやすい環境**を作り上げ、**話のリズム**を意識していきます。

「驚き」を声とともに**体でも表現**し、インタビューを盛り上げていきます。

リズムがよければ、**相手はどんどん乗っていき**、話をすすめます。**何事もリズム**ということを意識していきます。

そのためには、何を聞こうかという**事前準備**が必要です。**聞きたい事柄のメモ**を事前に作っておけば、リズムを外れても修正がききます。

うなずく
相槌をうつ
感嘆する 感激する

[3] 価値観を広げる



人は、知らず知らず自らの価値観のメガネをかけて人の話を聞いています。これを外すためにたくさん本を読んで、「教養」を身につけましょう。

人は**自分なりの価値観**を知らず知らずのうちに蓄積していきます。

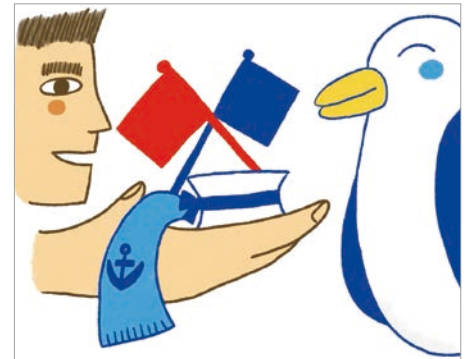
まずは**親からの教育**がベースになるのですが、

それが必ずしも正しいとは限りません。

人は**自らの価値観**という**メガネ**をかけて人の話を聞いてしまいます。

これでは、よいインタビュアーにはなれません。

自分の**価値観**という**メガネ**を外すには、「**教養**」というものが**必要**なのです。



教養を身につける努力をすることで

人の話を**自分の先入観**なくして**聞く**ことができるのです。

教養を身につけるには、

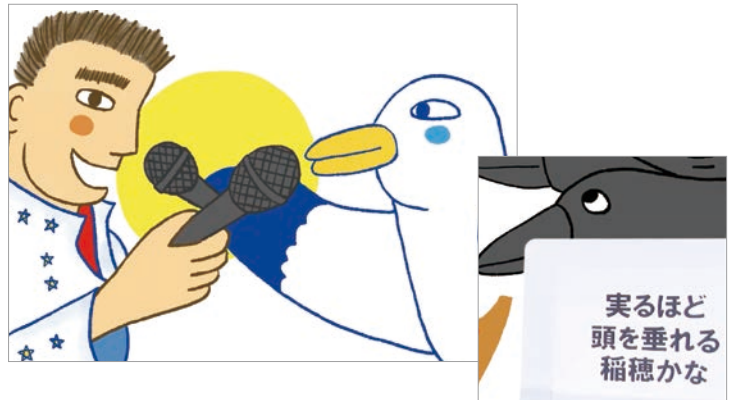
まずは**本をたくさん読む**ことから始めてください。

本には、**自分の知らない世界**が広がっています。

今回は、「敬意」を示すスキルについてお話ししましたが、

「実るほど頭を垂れる稲穂かな」という俳句もあるように、
たくさんの知識・教養に基づいてこそ
素敵なインタビュアーになることができます。

ぜひ、たくさんの本を読み、考え、
教養を身につけて行きましょう。



これで、今回のお話は終わりです。

大切なのは、自分の先入観なくして、
相手の話に「敬意」を持って耳を傾けること。

たくさんの本を読んで教養を身につけ、
さまざまな価値観への理解を広めて臨めば、
きっと素敵なインタビュアーになれます。



では、また
お会いしましょう！

こんにちは。越前賢一です。

〈インタビューになったら〉編の

第3回目です。

インタビューで本音をたくさん
聞き出すには、
こどものように
「素直に聞く」ことが大切です。

ビジネスワークに、なぜ「こども心」が必要なのか。
そのわけをご紹介するNATTARAスキルです。



今回のテーマは、

『「こども心」を復活させよう』です。

インタビューの大切なポイントのひとつには、
こどものように“邪心なく”、素直に聞くことが挙げられます。

3歳児は、いろいろなものに興味を示し、
「なぜ」「どうして」を繰り返します。

しかし成長していくと、なぜかこうした行動が影を潜めます。
実は、インタビューには、この3歳児の精神が必要なのです。

では、インタビューにとって大切な、この「こども心」に
ついて、3つに分けてお話ししていきましょう。

[1] こんな質問、いまさらできない



事前にわかっていることだから…とか、いまさら聞いては失礼では…と考えず、その場で興味が湧いたことは、まっさらな気持ちで聞いてみましょう。

例えば、事前にわかっている**プロフィール情報**があるとしましょう。

いろいろなインタビューを通じて、

この人がすでに話していることだからと、

一方的に決めつけてしまうと**質問や感動が薄れて**きます。

ここは、あくまでも**まっさらな気持ち**を持つことが大切なのです。

ここに書かれているけど、**それだけだろうか？**

新たな発見をつかもう、

という**素直な気持ち**でインタビューに臨むと、

思いがけない話が聞けるのです。

素直に
興味をもって
聞く

[2] それはなぜ？を繰り返す



相手の言葉に疑問を感じたり、不思議に思ったことがあったら、こどものようにしっかり関心を表して、「それはなぜ？」を繰り返しましょう。

こどもは、わからないことは**どうして？ なぜ？**を繰り返します。

目を輝かせ、興味津々に**相手の言葉**を待っています。

曖昧な言葉にはすぐに反応し、

「それはなぜ？」と質問を浴びせます。

こうした行動は、**「あなたのことに、関心を持っています」と**

体中で表現しているのです。

「それはなぜ？」という**魔法の言葉**を信じましょう。

心を込めた質問が

素晴らしいインタビューに導いてくれます。



[3]「こども心」を持ち続ける



インタビューの最中、時に冷静な大人心が顔を出したら要注意。悪魔のささやきに惑わされずに、「こども心」を持ち続けましょう。

インタビューをしていると、**つまらない話**に出くわすことがあります。この時は要注意です。**大人心**があなたを襲います。

「つまらないな」「その話は聞いたよ」など

悪魔のささやきが聞こえます。

そうすると知らず知らずに、

顔や態度で**つまらないという表情**を相手に見せることにつながります。そうした状態になると、インタビューはうまくいかないでしょう。

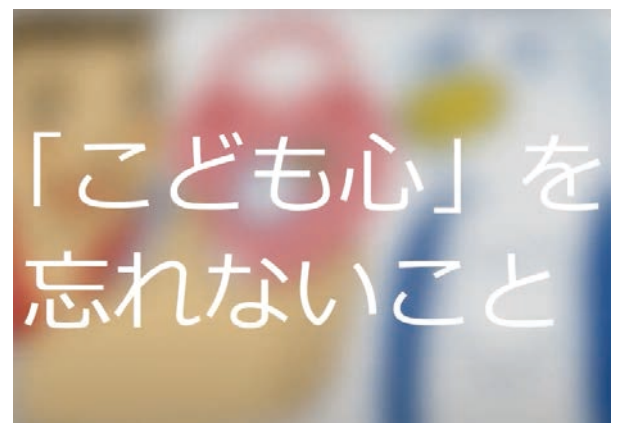
関心の気持ちを絶やさず、**粘り強く聞く**ことです。

必ずテーマに関して探していたものが見つかるはずです。

インタビューアーにとって大切なものは

「こども心」です。

それを忘れないで**持ち続けて**ください。



今回は、『「こども心」を復活させよう』についてお話ししましたが、

「三つ子の魂百までも」という諺もあるように、

皆さんの心にもきっと「こども心」があるはずです。

好奇心いっぱいの「こども心」を忘れずに、

これからのインタビューに
ぜひ生かしていきましょう。



三つ子の魂
百までも

これで、今回のお話は終わりです。

本音を話してもらえるかどうかは、**聞き方次第**。
インタビューア-は、**素直に、まっさらな気持ち**で聞く。
まさに、**大切なのは好奇心**いっぱいの「こども心」。
心を込めた質問を粘り強く続ければ、
きっといいインタビューができるでしょう。



では、また
お会いしましょう！

〈インタビューになったら〉

- [1] 「感動人間」になろう
- [2] 「敬意」のスキルを磨く
- [3] 「こども心」を復活させよう

この〈インタビューになったら〉編では、
人から「本音」を聞き出す、話してもらおうという
誰もが日々経験する、ビジネス上ぜひ身につけておきたい
スキルをご紹介します。

ぜひ、「～になったら」をステップアップの絶好の機会と捉えて、
積極的にチャレンジしてみてください。



では、成功を祈ります。

NATTARAトレーニング スクール
公式WEBサイト www.nattara.net



一緒に、ガンバロウ!



NATTARAトレーニング スクール〈運営事務局〉

〒153-0051 東京都目黒区上目黒5-6-26 メゾンLEE1階 (株)クレド内
TEL:03-6452-4828 / FAX:03-6452-4827